

四王の歴史を冊子に

縄文時代から現代に至るまでの四王の歴史を冊子にまとめた下諏訪町の矢島さん



矢島さん 1年かけ編集

下諏訪町西四王の矢島毅さん(78)は、縄文時代から現代に至るまでの四王の歴史を冊子「四王の成り立ちと歩み」にまとめた。80年近く住む四王の地区に何か貢献できることはないか—との思いから、有識者や年配者への聞き取りや文献などを参考に約1年をかけて編集。四王の歴史を後世に伝えていきたい—と

思いを強くしている。

冊子は13ページで、古地図や出土品の写真、古い写真などを多数掲載する。「四王」の地名の起源については、洪水で仁王像2体が諏訪湖に流れ、今の四王の地に打ち上げられた—とする有名な説のほか数説を紹介。四王の成り立ちについては、諏訪湖の水位変化と密接だとし、最高水位

期の奈良、平安時代初期には一帯が水没して集落が一時途絶えていた—と、地理的な特徴を解説している。

四王の歴史をたどる章では、▽縄文▽弥生▽古墳▽奈良、平安▽中世▽江戸▽明治▽大正▽昭和▽平成—と、時代ごとにどのような地域で、どんな暮らしや産業があったのかを簡潔にまとめた。

縄文時代では、四王地区に縄文晩期(約4000年前)には人が定住していたことが「四王前田遺跡(現大和電機工業敷地)」の出土品などから確認できると紹介。明治時代には埋め立てが進み水田地帯となったが、当時の地図ではまだ4戸のみ。昭和に入ると舗装工事が進み、企業の進出が増加。昭和40、50年代には湖畔地域を中心とした「一ツ浜土地区画整備事業」があり、現「ジャスコ通り」から諏訪湖畔一帯は急速に宅地化、市街化が進んだという。

編集を終え、矢島さんは「四王は昭和30年代までは田んぼや畑を中心とした農耕地帯だった。その後、市街地化が進み、現在は2000人を超えている人が住む地域に発展を遂げた」と変遷を概観。今回の冊子は個人的な興味で作成した

とし、「これをきっかけに、今後は町内会で組織をつくり、この冊子に肉付けをしていってほしい」と願った。冊子は約50部作成し、町内会や協力者らに寄贈済み。下諏訪町立図書館にも1部寄贈した。